

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。
e-mail で gjjimu@tenmon.or.jp 宛、なお、原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、
2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、
3. 専門分野、
4. 職務内容・担当科目、
5. (1) 着任時期、(2) 任期、
6. 応募資格、
7. 提出書類、
8. 応募締切・受付期間、
9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、
10. 応募上の注意、
11. その他（待遇など）

京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻教官

1. 教授 1 名
2. (1) 物理学第二分野宇宙線研究室
3. 高エネルギー γ 線天文（実験）
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. ○履歴書、○業績リスト、○主要論文別冊 2-3 編程度、○現在までの研究歴並びに着任後の研究計画、○着任可能時期
8. 1999 年 7 月 15 日（木）
9. (1) 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科物理学第二教室
主任 笹尾 登
(2) 同上
小山勝二 電話 075-753-3833
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書し、簡易書留で送付のこと

ハワイ観測所（RCUH）研究員

1. 研究員（若干名）
国立天文台ハワイ観測所にて、開発、観測、研究等に積極的に取り組み、先進的な研究を推進する若手研

究者を求める。

2. (1) 国立天文台ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ、およびマウナケア山頂すばる望遠鏡関連施設。
3. 天文学及び関連分野
5. (1) 決定後できるだけ早い時期。
(2) 原則として 1 年で、1 年の延長が可。特別な理由がある場合には、さらに 1 年の延長が可。
6. 大学院修士課程修了、又はそれと同等の学力を持つ者。普通自動車免許を有し、高度 4200 m にて勤務可能なこと。
7. J-1. 履歴書（写真付き）、J-2. 研究歴、J-3. 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）、J-4. 主要論文の別刷り又はコピー、J-5. 研究計画書（希望受入教官名を明記のこと）、J-6. 推薦書（ある場合は添付）、J-7. 大学院または大学の修了／卒業証明書のコピー（学位記のコピーでも可）
以下は英文にてご用意下さい。
E-1. 表紙をつけ、職種識別番号「700061」を記入のこと（英文）、E-2. 英文の履歴書（職歴がある場合には給与も記載）、E-3. 本人について意見を述べられる人 3 名の氏名と連絡先電話番号（英文）
8. 1999 年 6 月 1 日必着
9. (1) Prof. Norio Kaifu, Director, Subaru Telescope, NAOJ, 650 North Aohoku Place, Hilo, HI 96720, USA
(2) 国立天文台ハワイ観測所教授 林 正彦
Tel: +1-808-934-5071
e-mail: masa@subaru.naoj.org
10. 封筒の表に「国立天文台ハワイ観測所（RCUH）研究員応募書類在中」と朱記し、上記ハワイ観測所長（9 (1)）あてに送付すること。
11. 待遇は国立天文台非常勤研究員規則に準拠するが、ハワイにおける特殊条件を考慮し、ハワイ大学研究公社（RCUH）による雇用となる。

国立天文台教官公募

1. 助手 2 名
2. (1) 理論天文学研究系
(2) 東京都三鷹市
3. 理論天文学
4. 全国の理論研究者との連携を保ちつつ、観測天文学を視野に入れて、理論天文学を推進する若手研究者を求めます。少なくとも 1 名については、天文学データ解析計算センターを中心とするスーパーコンピューター等による共同研究・共同利用の推進にも意欲のある方を望みます。
5. 決定後なるべく早い時期

6. 大学院修士課程修了, 又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書(顔写真添付), (2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと)および主要論文別刷, (4) 研究計画書(特に天文学データ解析計算センターを中心とする計算機による共同研究・共同利用の推進にも意欲のある方はその観点からの抱負を特記のこと), (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項(1)~(5)の概要がわかる書類
8. 平成11年7月15日(木)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台企画調整主幹 観山正見
TEL: 0422-34-3738 FAX: 0422-34-3746
E-mail: miyama@yso.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒に「理論助手応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい. 選考は国立天文台運営協議員会にて行います.

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

国立天文台光学赤外線天文学・観測システム研究系教授

1. 第91巻11号
2. 水本好彦

京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室教授

1. 第91巻11号
2. 舞原俊憲(京大理学研究科物理学第二教室)
3. 1999年5月1日

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻助教授

1. 第92巻1号
2. 横山順一(京都大学基礎物理学研究所)
3. 1999年6月1日

研究助成

(財)科学技術融合振興財団助成金応募のご案内

財団法人科学技術融合振興財団の, 平成11年度助成金応募要領が決まりましたのでお知らせいたします.

これは, 科学技術の融合等に関する研究に対して, 当財団が助成金を交付し, 調査研究を支援するものです. 研究課題

1. シミュレーション&ゲーミングに関する調査研究
2. シミュレーション&ゲーミングによる教育用ソフトウェアの試作(教育用ソフトウェアを通じて行う青少年科学技術啓蒙活動)

応募締切日: 平成11年10月15日(金)

応募者の資格は, 国内の大学・研究所等の非営利の研究機関に属する研究者で, 正式部局員と致します. 助成金は, 1件100万円~200万円程度を基準に, 総額1,500万円を交付いたします.

申請書は天文学会事務室にあります.

お問い合わせ先:

〒223 神奈川県横浜市港北区日吉本町1-4-24

財団法人 科学技術融合振興財団 事務局 丸山

TEL: 045-562-5432 FAX: 045-562-6132

E-mail: kys1311@nifty.ne.jp

(財)井上科学振興財団, 第16回井上研究奨励賞の受賞候補者を募集

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は, 第16回(平成11年度)井上研究奨励賞の受賞候補者を次のとおり募集している.

1. 概要: 平成8~10年度の過去3年間に, 理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35才未満の研究者で, 自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた論文を提出した研究者に, 賞状及び研究奨励金50万円を贈呈する.
2. 受賞件数: 30件
3. 募集方法: 博士論文を指導した研究者の推薦に基づき, 学位を授与した大学の学長からの推薦
4. 推薦締切日: 平成11年9月20日(月)
5. 照会先: (財)井上科学振興財団
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町11-20
TEL: 03-3477-2738 FAX: 03-3477-2747

第16回(平成11年度)井上學術賞
受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

- 候補者の対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。
ただし、年齢が平成11年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。
- 學術賞：本賞(賞状及び金メダル)、副賞(200万円)授賞件数は5件以内とします。
(注)受賞者は、原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。ただし、この場合においても1件として取扱います。
- 推薦依頼先：下記の30学会、並びに当財団の理事・評議員等に推薦を依頼します。
- 推薦件数：各推薦学会または各推薦者から、原則としてそれぞれ1件とします。
- 提出方法：所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、当財団あてに提出願います。
- 締切期日：平成11年9月20日(月)
- 選考：当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。
選考の結果は、平成11年12月中旬に推薦者に通知します。

★申込み用紙は天文学会事務室にあります。

- 學術賞の贈呈：平成12年2月4日(金)の予定
- 推薦書提出先：財団法人 井上科学振興財団
及び連絡先：〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町11-20
TEL: 03-3477-2738 FAX: 03-3477-2747

日本数学会	日本発生物学会	日本農芸化学会
日本応用数理学会	日本分子生物学会	日本生理学会
日本物理学会	日本地震学会	日本解剖学会
日本生物物理学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本神経科学学会
日本天文学会	日本気象学会	日本神経化学会
日本化学会	日本海洋学会	日本生化学会
日本動物学会	応用物理学会	日本免疫学会
日本植物学会	電子情報通信学会	日本癌学会
日本細胞生物学会	日本金属学会	日本薬学会
日本遺伝学会	高分子学会	日本薬理学会

研究会・集案案内

第2回重力波検出に関する
TAMA 国際シンポジウム

- 主催：創成的基礎研究「高感度レーザー干渉計を用いた重力波天文学の研究」総括班
日時：1999年10月19日(火)～22日(金)
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
内容：重力波の直接検出を目指して、世界的に長基線レーザー干渉計の建設が進められている。諸外国の大型計画、及び日本で推進されているTAMA計画に携わる研究者が、重力波検出に関する研究・技術開発の成果を持ち寄り、議論する。平成11年はTAMA計画の最終年度で、その成果報告を中心に、全世界から重力波天文学幕明け前夜のホットな話題(外国からの招待講演は12件を予定)が提供される。
定員：約100名
参加費：2万円(バンケット参加費、プロシーディングス代を含む)
連絡先：〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台宇宙計量部門 川村静児
電話：0422-34-3620 FAX：0422-34-3793
e-mail：tamaws@gravity.mtk.nao.ac.jp

第21回宇宙ステーション利用計画
ワークショップ 開催計画

- 会合名：第21回宇宙ステーション利用計画ワークショップ
開催日時：平成11年6月29日(火)9:30～17:35
6月30日(水)9:30～17:35
7月1日(木)10:00～17:10
開催場所：砂防会館 シェーンバッハ・砂防
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5
会合の内容：宇宙開発事業団に設置された宇宙環境利用研究委員会(委員長：菅野卓雄)、宇宙環境利用研究システム(システム長：井口洋夫)が中心となって開催し、JEM利用の具体的内容についてJEM等ユーザー及びJEM利用に関心を持つ研究者と意見交換を行う。
主催者名：科学技術庁、宇宙開発事業団
協賛・後援団体名：22の学会の協賛(予定)
学会参加費：無料
詳細問い合わせ先：
(財)宇宙環境利用推進センター宇宙実験推進部

担当：深澤 潔／野村知加
〒169-8624 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL：03-5273-2442 FAX：03-5273-0705

(参考)

宇宙開発事業団ホームページ：<http://www.nasda.go.jp/>

第 24 回光学シンポジウム

「光学系及び光学素子の設計・製作・評価を中心にして」

主催：日本光学会（応用物理学会）

日時：1999年7月1日（木）9:30～17:20

2日（金）9:30～16:45

（懇親会：1日（木）17:40～）

場所：東京大学生産技術研究所 第1会議室
東京都港区六本木 7-22-1（地下鉄千代田線乃木坂駅／日比谷線六本木駅下車，徒歩7分）

参加費：日本光学会員 3,000 円，応物又は協賛・賛助学会員 4,000 円，日本光学会学生会員 無料，非会員（一般 6,000 円，学生 1,000 円）予稿集代を含みます。

〈プログラム〉

—7月1日（木）午前の部 9:30～12:20—

（システム設計・評価）

[1] 「すばる」望遠鏡の新技術

【招待講演】国立天文台 家 正則

[2] 高精細 3 CCD デジタルカメラ用ズームレンズの開発 旭光学工業 伊藤孝之 他

[3] 正立実像の小型レンズアレイ マーク 藤陵巖達 他

[4] レーザプリンティングにおける高速・高密度化技術 リコー 中島智宏 他

[5] 拡大投影型レーザ走査光学系のレンズ設計 富士ゼロックス 福永秀樹

[6] Analysis of Diffraction Effects in Optical Systems Optical Research Associates Thomas J. Bruegge et al.

—午後部の部 14:00～17:20—

（設計アルゴリズム）

[7] 次元降下によるレンズシステムの最適化

中川レンズデザイン研究所 中川治平 他

[8] エスケープ関数を用いたレンズ設計

東京工芸大学 荒井大作 他

[9] 色収差を考慮したレンズ系の進化的設計

徳島大学 小野 功 他

[10] 遺伝的アルゴリズムによる光学多層膜の最適設計 信州大学 中村正行 他

（フォトニック結晶）

[11] フォトニック結晶とその応用光デバイス

【招待講演】東北大学 大寺康夫 他

[12] フォトニック結晶における「屈折」現象

日本電信電話 納富雅也

[13] フォトニック結晶光学—スーパープリズム、セルフコリメーション現象— 日本電気 小坂英男

[14] 高規則性陽極酸化アルミナの作製と可視域 2 次元 フォトニック結晶特性 東京都立大学 益田秀樹 他

—7月2日（金）午前の部 9:30～11:45—

（光ディスク・表示）

[15] Super-RENS ディスクを用いた近接場光記録システム 産業技術融合領域研究所 中野隆志 他

[16] 液晶超解像光学素子の設計と光ピックアップへの応用 シチズン時計 橋本信幸 他

[17] ラミネートプリズムを用いた光磁気用集積ピックアップの開発 九州松下電器 三政治郎 他

[18] 7ビーム並列再生光ピックアップ

ケンウッド 宮澤 寛

[19] LiNbO₃ を用いた狭ピッチ偏光ホログラムの開発 松下電器産業 和田彦彦 他

[20] 端面照射型ホログラムの装着型ディスプレイへの適用可能性 富士ゼロックス 友野孝夫 他

—午後部の部 13:15～16:45—

（光学素子・加工）

[21] 薄膜の常温接合による微細形状創成法の提案と微小光学素子への適用 富士ゼロックス 高橋睦也 他

[22] 実用的な Δn を持つ低分散分布 GRIN レンズの作製 オリンパス光学工業 福岡荘尚 他

[23] PVE D法を用いたカラーフィルターの作製

富士ゼロックス 大津茂実 他

（光計測）

[24] リアルタイム位相シフト干渉法による宇宙での結晶成長の研究

【招待講演】東北大学 塚本勝男

[25] 微分干渉計を用いた光CT法による屈折率分布の時間的変化の測定 大阪府立大学 菊田久雄 他

[26] 複屈折の高空間分解測定法 ユニオプト 高和宏行 他

[27] 縞走査干渉計における振動に強い位相解析法

ニコン 朱郁葱 他

[28] 白色干渉法による三次元構造のスペクトル解析 筑波大学 蔡明宏 他

問合せ先：(株)リコー 画像技術開発本部 OE 開発室 須原浩之

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6

TEL: 03-5742-5821 FAX: 03-3777-8178

E-mail: suhara-h@nts.ricoh.co.jp

※詳しくは「光学」5月号

または <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/osj-ap/> をご覧下さい。

共同利用・共同研究

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では、以下の観測プログラムの公募を行います。詳しくはホームページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/>) をご覧下さい。

- 〈野辺山 45m 鏡及び VLBI 国内ネット〉
第 XVIII 期共同利用 (1999 年 11 月～2000 年 5 月) 観測
- ・一般前期共同利用締め切り: 1999 年 6 月 7 日 (月)
JST15 時
 - ・一般後期共同利用締め切り: 1999 年 10 月 25 日 (月)
JST15 時
 - ・長期共同利用締め切り: 1999 年 6 月 7 日 (月)
JST15 時
 - ・Short Program 前期締め切り: 1999 年 11 月 15 日 (月)
JST15 時
 - ・Short Program 後期締め切り: 2000 年 1 月 31 日 (月)
JST15 時

- 〈野辺山ミリ波干渉計〉
第 XIII 期共同利用 (1999 年 11 月～2000 年 5 月) 観測
- ・一般共同利用締め切り: 1999 年 7 月 7 日 (水)
JST15 時
 - ・長期共同利用締め切り: 1999 年 6 月 7 日 (月)
JST15 時
- 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 所長 井上 允

会務案内

通常総会報告

〈1999 年 (平成 11 年) 3 月 26 日 (金) 16:00～18:15〉
於: 京都大学総合人間学部 E 30 番教室
議長: 尾崎洋二
議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総数は 262、総会出席者は 130。出席者のうちで事前投票をした 12 人は、事前投票の方を無効とした。従って有効出席者総数は 380 で、定足数 (正会員総数 1355 人の 5 分の 1 = 271) を満たすことを確認した。次に署名人として井上允氏、渡部潤一氏が選出された。続いて各賞の授与式が行われ、以下の方々それぞれの賞が授与された。

- 天体発見賞:
天体発見賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、以

下の 1 件 1 名に天体発見賞を贈呈することとなった。
高見沢今朝雄氏:へびつかい座新星 (Nova Ophiuchi 1998) の発見

なお、天体発見功労賞の該当者はなしであった。

- 研究奨励賞:
研究奨励賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、研究奨励賞が以下の 2 件 2 名に贈呈されることが決定された。
大橋永芳氏: 動的降着エンベロープの系統的研究
横山央明氏: 太陽 X 線ジェットとフレアの電磁流体数値シミュレーション研究

- 林忠四郎賞・欧文報告論文賞:
林忠四郎賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、林忠四郎賞 1 件 1 名、欧文報告論文賞 1 件 24 名が決定された。

- 林忠四郎賞
小山勝二氏: 銀河系内超高温プラズマおよび原始星からの X 線放射の発見

- 欧文報告論文賞
大橋隆哉氏, 海老沢 研氏, 深沢泰司氏, 日吉健司氏, 堀井通宏氏, 池辺 靖氏, 池田 斉氏, 井上 一氏, 石田 学氏, 石崎欣尚氏, 石塚敏夫氏, 上條俊介氏, 金田英宏氏, 香村芳樹氏, 牧島一夫氏, 三原建弘氏, 田代 信氏, 村上敏夫氏, 庄村利一郎氏, 田中靖郎氏, 上田佳宏氏, 田口孝治氏, 鶴 剛氏, 竹島敏明氏:
The Gas Imaging Spectrometer on Board ASCA (Publ. Astron. Soc. Japan, vol. 48, 1996, pp. 157-170.)

議事の経過および結果

1. 1998 年度事業報告 (第 1 号議案) がなされ、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
2. 1998 年度収支決算報告および監査報告 (第 2 号議案) がなされ、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
3. 有本欧文報告理事より PASJ の電子化の状況について説明があり、電子版 PASJ (臨時版) が 3 月 26 日から開始されたとの報告があった。
(なお、議案の内容は天文月報第 92 巻 3 月号をご参照下さい。)

大石雅寿 (庶務理事)

年会案内

日本天文学会 1999 年春季年会報告

1999 年春季年会は 3 月 25 日 (木)～3 月 27 日 (土) の 3 日間、京都大学総合人間学部の 6 会場を使って開催された。口頭 (10 分)、口頭 (3 分) + ポスター、による発表講演数はそれぞれ 294 件、153 件で合計 447 講演であ

った。なお、ポストデッドライン講演は1件であった。今回の年会参加者は710名と盛況で、大谷浩氏を中心とする京都大学の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々をお願いした。

等学校)の話題提供の後、時間を30分延長するほど、活発な意見交換が行われた。詳しくは天文教育フォーラム報告(天文月報6月号324ページ)を参照のこと。(沢 武文)

	3月25日			3月26日		3月27日	
	9:00-12:00	13:00-15:00	16:00-17:00	9:00-11:00	13:00-15:00	9:00-11:00	13:00-15:00
A	小杉健郎	廣瀬重信	秋岡眞樹	増田 智	渡部潤一	木下 宙	柳澤正久
B	大橋隆哉	福江 純	蜂巢 泉	加藤万里子	山岡 均	定金晃三	中田好一
C	水野 亮	犬塚修一郎	花輪知幸	中本泰史	小久保英一郎	梅村雅之	西 亮一
D	吉田篤正	奥田治之	—	平野尚美	長谷川哲夫	立松健一	芝井 広
E	中井直正	嶋作一大	山田 亨	牧野淳一郎	谷口義明	嶺重 慎	田代 信
F	福島登志夫	野口 猛	鶴 剛	海老塚 昇	長田哲也	川辺良平	春日 隆

〈記者会見〉

春季年会の前日の3月24日午後1時30分から、京都大学で記者会見を行い、次のトピックスについて解説した。10社の報道機関の出席があった。

★記者会見のトピックス

- (1)「40億光年遠方のガンマ線バースト源から鉄を発見」
吉田篤正(理研)他 関連講演：N10a
- (2)「すばる望遠鏡のファーストライトによるオリオン星雲と遠方銀河の高解像近赤外線画像の解析からわかったこと」
舞原俊憲, 岩室史英, 本原顕太郎(京大理)他 関連講演：V19a
- (3)「そして月が生まれた—巨大衝突により形成された周地球円盤からの月集積—」
小久保英一郎(東大総合文化)他 関連講演：L22a
- (4)「富士山頂から星の誕生を探る—サブミリ波観測でとらえた分子雲形成—」
山本 智, 関本裕太郎(東大理), 立松健一(国立天文台), 斎藤修二(分子研)他 関連講演：V46a, P04a, P05a, P19b, Q11a, Q12a, Q18b, Q19b, Q30a

〈通常総会〉

「通常総会報告」を参照。

〈懇親会〉

2日目午後6時30分から、京大会館を利用して行われ、約220名の参加者があった。(株)エイ・イー・エスからのご芳志もあり大変盛り上がった。(大谷 浩)

〈天文教育フォーラム〉

3日目の午後3時から5時まで、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム『どれだけできる? 「恒星」についての内容—新学習指導要領による小・中・高等学校の天文教育—』が開催された。参加者は82名で、水野孝雄氏(東京学芸大), 西村一洋氏(大阪府枚方市立山田東小学校), 大島 修氏(岡山県立鴨方高

〈公開講演会〉

日本天文学会公開講演会『宇宙への招待』が、3月28日午後2時から4時30分まで、京都館会議場にて開催された。聴講者は120名ほどであった。講師および講演題目は谷森 達氏(東京工業大学助教授)による「ガンマ線で探る巨大粒子加速器」、杉山直氏(京都大学助教授)による「宇宙背景放射—宇宙の秘密に迫る—」であった。谷森氏の講演では、ガンマ線というなじみの薄い電磁波についてのわかりやすい説明に続き、どのような手法で宇宙からのガンマ線をとらえることができるかについて説明され、最近の成果についてまとめられた。杉山氏の講演では、宇宙背景放射とは何か、宇宙の進化とどのように関わっているかについてのわかりやすい説明の後、宇宙背景放射をより詳しく観測することで宇宙の過去、現在、未来の姿をより詳しく知ることができるということについて説明された。それぞれの講演の後には質問時間をとり、参加者からの質問を受けた。いずれも熱心な質問が相次ぎ、時間が足りないほどであった。(沢 武文)

〈保育室〉

保育室はポスター会場と同じ建物の4階にあるゼミ室に設置された。3日間でのべ5人の子供の利用があり、また親子1組が休憩室として利用した。部屋にはレンタルの畳を敷き、玩具を準備した。シッターさんの派遣は(株)ママ・サービスに依頼した。京大関係者の協力に感謝する。(加藤万里子)

(年会実行委員長：吉川 真)

日本天文学会 1999 年秋季年会の開催と講演の申し込みについて

秋季年会は、1999年10月7日(木)から9日(土)までの3日間、九州大学にて開催されます。

今回からは、「企画セッション」や「最新情報コーナー」を新設してみました。また、一部の分野については「推奨キーワード」というものを設定してみました。さらに、講演をキャンセルする場合の扱いがかなり変更になっています。これらにつきましては、特に下記の案内にご注意下さい。

なお、宿泊・交通案内は月報の9月号に掲載予定です。また、プログラムをWWWで公開する時点で、宿泊・交通案内のWWWページも公開し、申込ができるようにする予定です。

【講演申し込み】

1) 申し込み期間

- ・ 郵送による申し込み：1999年7月8日(木)必着
- ・ 電子メールによる申し込み：1999年7月5日(月)正午から7月9日(金)正午まで
- 注意：電子メールでの申し込み受付は、コンピュータで自動処理されています。上記の期間以外はメールを受け付けませんので、ご注意ください。

2) 申し込み方法

- ・ 郵送による申し込み
規定の申込用紙に記入し、封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係までお送りください。

・ 電子メールによる申し込み

電子メールでの申し込み方法につきましては、申し込み1ヶ月ほど前にtennetを通して連絡します。tennetから直接情報を入手できない方は、tennet加入者にお聞きください。また、WWW (<http://www.tenmon.or.jp/>)にも掲載します。電子メールに関係することにつきましては、学会事務局へのお問い合わせはご遠慮ください。

3) 申し込みにおける注意<重要>

- ・ 講演は、天文学に関する完成度の高い研究に限ります。
- ・ 講演の形式は、口頭講演（10分間の口頭発表と5分間の質疑応答）とポスター講演（ポスターの掲示と3分間の口頭発表）の2種類です。
- ・ 筆頭著者が講演者となります。
- ・ 複数の講演の申し込みもできますが、口頭講演（10分発表）は同一講演者（筆頭著者）について1件までです。

・ 郵送での申し込みの場合は1講演につき1枚の申込用紙に記入してお送りください。電子メールでの申し込みの場合は、1講演につき1つのメールで申し込んでください。

・ 同一講演について二重の申し込み（例えば、電子メールと郵送の両方で申し込んだり、電子メールを複数送ることなど）は決してしないでください。このような申し込みがなされた場合は、受理いたしません。

・ 関連するいくつかの講演について発表の順序に希望がある場合には、講演申し込み期間内に、年会実行委員長までご相談ください。

4) 予稿原稿用紙の記入等について（郵送による申し込みの場合）

・ 用紙の右側の部分には、申し込む分野、筆頭著者に関する情報、発表形式を記入してください。非会員の方は、右下の連絡先にもご記入ください。

・ 用紙の左側の部分が予稿集に印刷されます。

・ 分野（キーワード）、題名、氏名（所属）は、左詰めで記入してください。

・ 講演する人の名前を氏名の欄の最初に書いてください。

・ 分野とキーワードについては、下記6)を参照してください。

・ 予稿の本文は、氏名の下の大きな空欄に黒で明瞭に書いてください。枠線からはみ出たものは印刷されない可能性があります。原稿は、90%程度に縮小されて印刷されます。

・ 印刷した別紙を原稿用紙に貼りつける場合は、粘着テープなどは使わずに、糊で確実に貼ってください。

・ 申し込み用の原稿用紙が不足する場合は、必要枚数を天文学会年会係まで請求してください。（連絡先は下記）

5) 電子メールで申し込む場合の注意

・ 電子メールでの予稿の書き方につきましては、申し込み方法と一緒にtennetを通して連絡します。

・ LaTeX形式で書いていただけますが、誤り無く印刷されることを十分確認してから、1回だけ投稿してください。同一講演について2回以上メールで投稿することは決してしないでください。

・ 投稿された予稿に必要な事項が記入されているかどうか確認された後、折り返し受付番号を記した電子メールが投稿されたアドレスに届きます。

・ 電子メールのサーバーは自動で動いています。予稿以外のことをメールに書かれてもそれは無視されます。

・ 非会員の方も、電子メールでの申し込みができます。

・ 電子メールによる投稿の場合、予稿本文がWWWに掲載されます。支障のある方は、前もってご連絡ください。

6) 分野・キーワードと「企画セッション」

・ 講演分野の分類は、以下の15通りです。

J.位置天文学, K.天体力学, L.太陽系, M.太陽, N.恒星, P.星形成, Q.星間現象, R.銀河, S.活動銀河核, T.銀河団, U.宇宙論, V.地上観測機器, W.飛翔体観測機器, X.情報処理, Y.天文教育・その他

・ 上記分野以外に「企画セッション」を行います。今回の年会でのテーマは下記の2つです。こちらのセッションで講演されたい方は、分野として下記の分野名

をご記入下さい。(講演の形式は、通常のセッションと同じです。)

A. 宇宙ジェット, B. 銀河形成

・申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入ください【例：銀河団(重力レンズ, ダークマター)】。

・キーワードはご自分で自由に選んでいただけますが、特に講演数の多い「M.太陽」, 「N.恒星」, 「V.地上観測機器」の3分野につきましては、以下の「推奨キーワード」の中からご自分の講演に関係が最も深いものを選んで、キーワードの先頭に入れてくださるようお願いします。これは、講演のプログラムを編成する上で参考にさせていただくためのものです。該当するものが無い場合は、ご自分で選んでいただいたキーワードだけで結構ですし、複数該当する場合には複数を書いていただいても結構です。

太陽：「太陽内部」, 「光球・彩層」, 「活動領域」,
「プロミネンス」, 「フレア」, 「コロナ」,
「CME・太陽風」

恒星：「超新星」, 「コンパクト星」, 「巨星」

地上観測機器：「電波」, 「赤外」, 「可視」, 「重力波」
「高エネルギー線」, 「宇宙線」

7) 講演で使える機器

・口頭での発表は、オーバーヘッドプロジェクターを使用してください。

・スライドの使用は原則として考えていませんが、どうしてもと言う方は早めに年会実行委員長までご相談ください。

・ビデオ装置や液晶プロジェクターは、口頭講演(10分発表)のみ使用可能です。

これらの装置の使用を希望される方は、申し込み期間中に年会実行委員長までご連絡ください。

・液晶プロジェクターにつきましては、利用できない会場がある可能性があります。希望されても使えない場合がありますのでご了承ください。

・液晶プロジェクターを使用される方は、接続するパソコン等をご持参ください。ただし、機種によっては液晶プロジェクターに接続できない場合もあります。

機器の接続に関しては、年会実行委員長までお問い合わせください。

・パソコンを液晶プロジェクターに接続して発表される方は、トラブルに備えてオーバーヘッドプロジェクターでも発表できるように準備してください。

8) ポストデッドライン・ペーパーと最新情報コーナー

・年会の申し込み期間締切後も、ポストデッドライン・ペーパー(Post-deadline papers)として講演を受け付けます。

・ポストデッドライン・ペーパーは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circularに

掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定されます。具体的には、約半年後の次の年会での発表まで待つことができない明確な理由(個人的理由は不可)が必要です。通常の申し込みよりもかなり受付の基準が厳しくなります。

・ポストデッドライン・ペーパーの受付期限は、10月4日(月)です。申し込まれる方は、この期日までに発表内容を年会実行委員長までお知らせ下さい。

・ポストデッドライン・ペーパーの講演方法は、ポスター発表のみとなります。

通常のポスター講演にある3分間の口頭発表はありません。

・ポストデッドライン・ペーパーの予稿は次の年会の予稿集に掲載されます。予稿原稿は、発表が受理された後に作成していただけます。予稿原稿は、郵送による申し込みと同様に予稿原稿用紙に記入して、日本天文学会年会係まで郵送していただくことになります。

・ポストデッドライン・ペーパーの他に、最新の情報を掲示するコーナーを設けます。こちらは、ポストデッドライン・ペーパーよりは緩い基準で受け付けます。ただし、これは年会での講演とはなりません。希望される方は、年会実行委員長までご連絡ください。最新情報コーナーへの掲示については申し込み期限を設定しませんが、掲示のスペースには限りがありますので、なるべく早めにお申し込みください。スペースが無くなれば、受付を終了します。

【年会についての注意とお願い】

1) 講演のキャンセルについて

近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかににかかわらず、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたします。慎重にお申し込みください。なお、講演キャンセルに関する点で、次の点にご注意ください。(特に今までと扱いが異なる点につきましてはコメントしてあります。)

・講演をキャンセルすることになった場合は、速やかに年会実行委員長まで連絡してください。

・キャンセルの場合、その理由によっては代理の人による講演を認めますので、実行委員長までご相談ください。(今までの年会では、口頭講演がある人は代理発表することができませんでしたが、今後はこの制限をはずします。)

・講演のキャンセルや講演者の変更などがあつた場合には、次の年会の予稿集に変更を記載するようにします。(今までは、変更があつても予稿集・月報では報告されませんでした。)

・講演をキャンセルする場合や代理の人に講演を依頼する場合でも、基本登録料や追加講演登録料は講演申込者がお支払いください。(今までは、キャンセルの場合は費用を支払っていただいておりますでしたが、

代理人による講演の場合は、その代理講演をした人の発表として、費用が徴収されてきました。これからは、すべて講演申込者に費用を支払っていただきます。）

◎ 講演のキャンセルは、お金と時間を無駄にすることになりますので、極力避けていただくようお願いします。

2) 年会時の会議室等の利用について

年会時に会議室などを利用されたい場合には、前もって九州大学の山岡均（年会開催地理事）までご連絡ください。（連絡先は下記）

3) 非会員の方へ

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。非会員の方でも講演の申し込みはできますが、是非、申し込みの際に入会をされますようお願いいたします。

【年会出席旅費補助】

講演申し込み者で年会出席旅費の補助を希望される会員は、7月8日(木)までに必着するよう日本天文学会に申し込んでください。ただし申し込みのできる人は、1999年度会費納入済みの方で、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない正会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会会場受付にてお渡し致しますので印鑑をご持参ください。年会終了後にはお渡しできません。

【登録料等の支払い方法】

年会に参加する方は、講演のあるなしに関わらず、下記の基本登録料をお支払いください。この基本登録料には、1講演までの講演登録料が含まれています。なお、2つ以上講演される方は、追加1講演につき下記の追加講演登録料をお支払いください。

基本登録料	3,000円（正会員（学生）は2,000円）
追加講演登録料	3,000円
年会予稿集	2,000円（購入希望者のみ）

1) 基本登録料および追加講演登録料は年会会場受付でお支払いください。

2) 予稿集予約の葉書を学会へお送り頂いている方以外で、予稿集を購入希望の方は、会員番号と1999年秋季年会予稿集希望と明記の上、郵便振替（下記）で送金ください。代金は1冊2,000円（含消費税、送料は会員は不要、非会員は実費（160円）です。また、予稿集は年会会場受付でも購入できます。

3) 講演をキャンセルした場合（代理人によって講演された場合も含む）は、講演申込者が基本登録料や追加講演登録料をお支払いください。この場合には、年会会場受付以外に、郵便振替でもお支払いできます。

4) 郵便振替：00160-1-13595

社団法人 日本天文学会

【天文学会会期中の保育室設置のお知らせ】

秋季年会でも、会場内に保育室を設置する予定です。詳しい内容と申し込み手続きは、天文学会のWWWページ (<http://www.tenmon.or.jp/meeting/>) に掲示します。WWWにアクセスできない方は、実行委員の加藤万里子まで、電子メール (mariko@educ.cc.keio.ac.jp) かFAX (045-563-1650) で、ご連絡ください。

【問い合わせ先】

1) 年会開催地理事

山岡 均 (九州大学)

電子メール：yamaoka@rc.kyushu-u.ac.jp

電話/FAX：092-726-4739

2) 日本天文学会年会係

電子メール：nkdt@tenmon.or.jp

電話：0422-31-5488 FAX：0422-31-5487

3) 年会実行委員長

吉川 真 (宇宙科学研究所)

電子メール：makoto@pub.isas.ac.jp

電話/FAX：042-759-8341

(年会実行委員長 吉川 真)

お知らせ

本年4月30日より東京大学本郷地区の電話がダイヤルインになり、天文学専攻は下記下のようにになりました。

■電話

事務室 03-5841-4251

事務室（教務関係） 03-5841-4254

図書室 03-5841-4253

■ファックス

03-5841-7644

編集委員	上野宗孝（編集長）、大橋正健、小野智子、斎藤芳隆、田村元秀、土橋一仁、内藤統也、和田桂一
平成11年5月20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円（本体667円）	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359（事務室）	/ 0422-31-5488（月報・欧文編集） FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp 月報編集 e-mail: gjjimu@tenmon.or.jp